



輪を広げよう!

平成30年10月13日（土）～15日（月）に開催される『福井しあわせ元気大会』の、バレーボール競技〈知的障がい部門〉出場のため、クラブチームの練習に参加されているTさん（写真左）。

毎週日曜日に、市内の体育館で大会に向けた練習が行われ、バレーボール初心者のTさんも、先生たちに教えていただきながら、日々努力しています。

Tさんが、どのように練習に参加されているのか、バレーボールを通して見えてきた変化について、ご紹介します。

Tさんについて

家族構成	母・姉・弟2人
性格	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい ・素直 ・家族といつも一緒にいたい ・母や姉弟の考えが気になる
平日	法人内の作業場で軽作業
休日	グループホームでの外出やご家族とお出かけをしている

きっかけ

Tさんがバレーボールを始めるきっかけとなったのは「ふくいスペシャルバレーボールクラブ（通称、FSV）」という聴覚障がいおよび知的障がいのある方々が参加されているクラブチームから、あすわ地域生活支援センターへ、利用者の方への参加の依頼があったからでした。

自分で物事を決めることが苦手で、何を決めるにも家が

族に確認しないと決められなかつたり、いつも家族がどう過ごしているのかが気になって不安になってしまったりするTさんでしたが「やってみよう！」とすぐに希望され、その想いを後押ししていきたくて、FSVの練習に参加することとなりました。

練習開始!

最初の練習では、初めての人たちや場所に緊張され「知っている人がいない」という不安から、職員のをそばを離れず、積極的に参加することができませんでした。そのため、しばらくは職員と一緒に練習に参加し、上手に伝えられない気持ちを代弁したり、一緒に輪に入ったりすることで、他の参加者たちと少しずつ接する機会をもつていけるようにしていきました。

3か月ほど経つと、職員が付き添わなくても少しずつ自分から練習に参加されるようになり、今では一緒に参加している利用者の方たちと、公共交通機関を利用して練習場所へ通い、準備運動や後片付けなど、練習以外のことも周りの様子を見ながら、頑張つて取り組んでいます。

6月に行われた大会では、緊張しながらも、自分の前に来たボールは落とすことなく、チームの得点に貢献していました。



6月に行われた大会の様子



気持ちの変化

今までは不安になると自分の思いを伝えるばかりになつていたTさんがバレーボールを始めたことにより、職員や周りの意見を聞きながら、どうしたらいいのかを一緒に考え、自分で判断されることが増えてきました。

また毎月の休日のうち2回を練習の日と決めたことにより、他の予定が立てやすくなり、先の見通しがもてることで、安心して過ごされるようにもなつてきています。さらに、他の日の家族との外出予定をTさん自身から伝えてこられるなど、自分の思いや考えを自信をもって相手に伝えられることが増え、Tさんの生活が充実したことにより、気持ちの安定へとつながっています。

参加されている利用者の方の声

楽しい!友だちもたくさんできたし、これ(バレーボールクラブ)があるから、仕事も頑張ろうって思える!

バレー楽しいよ!お姉ちゃんも一緒に、とってもうれしい!お母さんたちや職員さんにも見に来てほしい!(Tさん)

なかなか練習に参加できなくて試合に出られなくて悔しかった。もっと練習して次は絶対に出るぞ!



バレーも楽しいし、学校のときの友だちと会えてうれしかった!

担当からメッセージ

Tさんが、バレーボールを始めたばかりのときは、友だちができるのか、上手にできるのか、知っている人があまりいないこともあり不安な気持ちばかりでした。

実際に、姉や仲の良い友だちが、都合で一緒に行けない日は、一人で行くことに不安を覚えていました。特に、いつも行動を共にする姉が行けないときには「行きたいけど怖い」といった複雑な思いを抱え、悩んでいるときもありました。が、バレーボールへの思いは強く、最終的には自分で行くことを選択しています。

これだけ大好きで、打ち込めるものを見つけたことができて良かったです。これから、バレーボールを通じて、いろいろな人たちとのかかわり一つひとつが勉強になり、充実した社会生活を送れるよう、これから応援していきます。

ひまわりの家 小林 美乃